



ウソだった鳩山前首相の「抑止力」発言

昨年5月上旬、鳩山由紀夫前首相は沖縄を訪問。「学べば学ぶほど沖縄の海兵隊の抑止力の大切さが分かった」と語り、普天間基地の「県外・国外移設」という公約を投げ捨て「県内移設」を表明。米政府と名護市辺野古への「移設」を合意。

その鳩山前首相は2月12日までに沖縄タイムスのインタビューに応じ「米軍普天間基地の『県外・国外移設』という公約を断念した理由に在沖縄米海兵隊の『抑止力』の重要性を挙げたことは方便だった」と語った。「方便」つまり「ウソ」だったのだ。

もともと海兵隊は24時間で世界の何処にで

も殴り込む為の攻撃部隊。イラクやアフガニスタンに攻め込んでいて留守。菅首相も2006年6月「沖縄に海兵隊がいるか、いないかは日本にとっての抑止力とあまり関係のないことだ」と述べていた

米国としては、日本政府の思いやり予算があつて、経費が節約できる。米本国なら考えなければならぬ周辺住民の環境安全問題も沖縄なら一切無視できる。だから沖縄に海兵隊を置いておきたい……それが米国の意図なのだ。それを図らずも鳩山前首相が証言したようなものではありませんか？ 皆さんはどう思われます？



カッシーナ・デイ・ポミ 昔、ナポレオンも訪れた

カッシーナ・デイ・ポミの意味は「りんご農園」。十八世紀末、ナポレオンがイタリアに攻め込んだときに、ミラノに入る前夜、ここで食事をしたと云う。当時はミラノの街外れで農村地帯。りんごの木が沢山あったのだらう。が、今は、ミラノ中央駅に近い賑やかなメルキョリ・ジョイア通りの北端となつてゐる。

近世のイタリアでは小さな村を一人の貴族が支配。その中央に、大きな館「カッシーナ」があつた。絵の左の入口のある部分が貴族の住居。右側に窓が沢山並んでいるのが、農業労働者のアパート。裏側は馬小屋だらう。今、農業の機械化で、多くのカッシーナでは農業労働者のアパートは空となり貴族の末裔がトラクターを運転。

二十年前、その貴族の住居部分はレストランになつていたが、今は廃業。

このカッシーナ・デイ・ポミの右にあるのは運河。ミラノの北方から水が流れ込む。ミラノの石造りの建物を造るには舟運が不可欠。昔は、ミラノ中央に縦横に運河があつたが、今では、殆ど蓋をされ地下を流れている。